

●モンゴル

モンゴル経済は、COVID-19パンデミックの影響を受けた深刻な収縮から、2022年も緩やかに回復し続けた。モンゴル銀行は、自国通貨の利率を維持し、上昇するインフレを抑制するに引き締めの金融政策を継続した。

マクロ経済

モンゴルの実質四半期 GDP は、2022年第1四半期に前年比3.9%減で3四半期連続で縮小したが、第2四半期は前年比6.3%、第3四半期は前年比7.1%の成長となり、1-9月期で前年比3.7%の成長となった。サービス部門と農業部門が成長の主な原動力となった。第3四半期の季節調整済みの実質 GDP は、前四半期から0.1%高くなっている。1-9月期の名目 GDP は35.2兆トゥグルグであった(図1)。

需要面では、最終消費と総資本形成が成長の原動力となったが、純輸出は引き続きマイナスに寄与した。最終消費は2022年の1-9月期に5.3ポイントの成長をもたらした。第1四半期、第2四半期、第3四半期では、それぞれ6.6ポイント、4.2ポイント、5.2ポイントに相当した。総資本形成の寄与度は、第1四半期と第2四半期

にそれぞれプラス5.0ポイントと26.5ポイントだったが、第3四半期にはマイナス3.7ポイントになった。総資本形成は1-9月期に成長に9.3ポイントのプラスの貢献をした。同時に純輸出は1-9月期の成長にマイナス10.8ポイント寄与した。四半期ごとでは、第3四半期の純輸出は5.4ポイントのプラスの寄与だったが、それ以前の2四半期はマイナスだった(図2)。

実質鉱工業生産(GIO)は、2022年第3四半期まで4四半期連続で減少し、1-9月期で前年比7.5%の縮小となった。石炭、銅精鉱、原油など、主要な鉱業部門の生産量は、非貨幣用金と銀精鉱を除いて、前年よりも低かった。製造業部門の生産も、肉、牛乳、小麦粉、たばこ、練炭、銅片など、主要品目のほとんどで前年を下回ったが、アルコール飲料とノンアルコール飲料、カシミア製品、石灰の生産は前年を上回った。

消費者物価指数(CPI)は引き続き上昇し、2022年第2四半期には16.3%、第3四半期には14.9%に達した。CPI上昇の主な要因は、食品と衣料品の価格上昇であった。食料品と衣料品のシェアは、全品目の25.1%と12.3%にそれぞれ相当する。

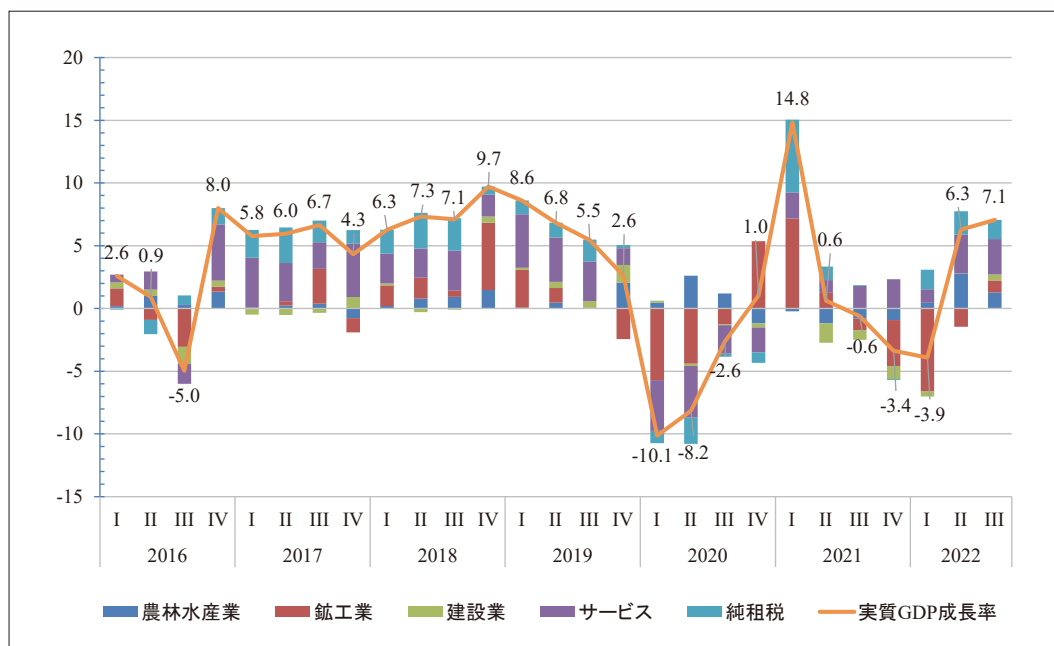
モンゴルの通貨トゥグルグは引き続き減値し、2022年第3四半期の1米ドルに対

する平均名目為替レートは3199トゥグルグで、前年比12.3%の減価となった。輸出の減少と輸入の増加は通貨下落の引き金となった。

2022年9月末のマネーサプライ(M2)は27.5兆トゥグルグ(84.3億米ドル)で、前年比0.8%増加した。モンゴル銀行は、2020年から2021年にかけて導入した金融緩和政策を撤回し、政策金利を当初の6%から2022年1月末には6.5%に引き上げ、さらに3月には9.0%、6月には10%、9月には12%に引き上げた。12月には13%となり、2017年5月以来の高水準となった。その結果、融資残高の伸びは4月末の前年比28.9%から9月末には前年比13.7%、11月末の前年比12%まで低下し、11月末の融資残高は22.4兆トゥグルグとなった。同時に、不良債権の割合は、2022年3月末の9.7%から2022年9月末には11.2%に増加した。

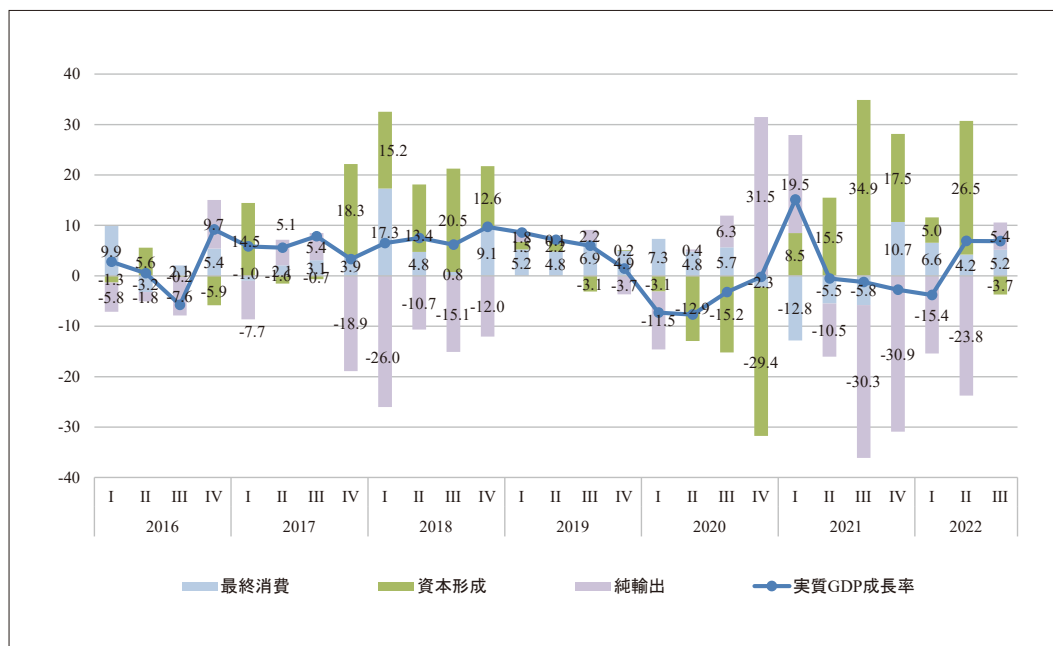
国家予算は、2022年1-9月期において9621億トゥグルグの赤字で、赤字幅は1年前より24.7%減少した。総収入と助成金の合計は11.5兆トゥグルグ(前年比19.1%増)で、総支出と純貸付は12.5兆(前年比14%増)となった。予算支出は、経常支出、設備投資、純貸出のすべての項目で前年を上回った。

図1 四半期GDP成長率と生産部門別寄与度(対前年同期比)



(出所) モンゴル国家統計局

図2 四半期GDP成長率と需要項目別寄与度(対前年同期比)



(出所) モンゴル国家統計局

外国貿易

2022年1-9月期に、モンゴルは156カ国と貿易を行った。総貿易額は151億ドルに達し、輸出は89億ドル、輸入は64億ドルで、貿易収支は25億6000万ドルの黒字となった。輸出と輸入はそれぞれ前年比39.4%と24%増加した。輸出が増加したのは、主に石炭と非貨幣用金であった。

モンゴルはこの期間に1900万トンの石炭と9.9トンの非貨幣用金を輸出した。石炭の輸出額は450万ドルで、前年の3倍に達した。中国は引き続きモンゴルの最大の輸出先であるが、石炭は対中国輸出全体の54.2%を占めている。

中国は同時に2022年1-9月期のモンゴルの最大の輸入元となり、ロシアと日本が

それに続いた。これらの国からの輸入は、それぞれ全体の35.1%、29.9%、8.3%であった。モンゴルのロシアからの輸入の60%が石油製品であるのに対し、モンゴルの日本からの輸入の66.1%は乗用車であった。

ERINA 調査研究部主任研究員
エンクバヤル・シャグダル

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2021年 1Q	2021年 2Q	2021年 3Q	2021年 4Q	2022年 1Q	2022年 2Q	2022年 3Q	2022年 1-9月
名目国内総生産(兆トゥグルグ)	23.9	28.0	32.6	37.8	37.5	43.6	9.26	10.60	10.07	13.63	9.58	13.44	12.21	35.2
実質 GDP 成長率(対前年同期比:%)	1.5	5.6	7.7	5.6	▲4.6	1.6	14.8	0.6	▲0.6	▲3.4	▲3.9	6.3	7.1	3.7
鉱工業生産額(対前年同期比:%)	▲0.3	5.1	6.4	1.7	▲1.6	49.3	71.1	50.5	47.5	28.1	▲7.2	▲6.4	▲8.7	▲7.5
消費者物価上昇率(対前年同期比:%)	0.8	4.3	6.8	7.3	3.7	7.1	2.5	6.0	9.2	11.7	15.4	16.3	14.9	15.5
失業率(%)	10.0	8.8	7.8	10.0	7.0	8.1	8.8	8.4	7.4	8.1	8.5	7.8	5.4	7.2
対ドル為替レート(トゥグルグ)	2,148	2,441	2,473	2,664	2,813	2,849	2,850	2,850	2,849	2,849	2,869	3,092	3,199	3,053
貨幣供給量(M2)の変化(対前年同期比:%)	21.0	30.5	22.8	8.2	16.2	13.8	22.9	29.6	20.2	13.8	4.2	▲1.3	0.8	0.8
融資残高の変化(対前年同期比:%)	6.1	9.6	26.5	5.0	▲5.0	21.3	2.8	10.3	16.5	21.3	25.2	22.6	13.7	13.7
不良債権比率(%)	8.5	8.5	10.4	10.1	11.8	10.0	11.5	10.3	9.9	10.0	9.7	9.0	11.2	11.2
貿易収支(百万 USドル)	1,558	1,863	1,137	1,492	2,277	2,398	477	373	448	1,126	230	1,130	1,203	2,563
輸出(百万 USドル)	4,916	6,201	7,012	7,620	7,576	9,247	2,000	2,111	2,313	2,848	1,921	3,388	3,611	8,920
輸入(百万 USドル)	3,358	4,337	5,875	6,128	5,299	6,849	1,524	1,737	1,865	1,722	1,691	2,257	2,408	6,356
国家財政収支(十億トゥグルグ)	▲3,660	▲1,742	3	▲756	▲4,539	▲2,909	▲96	▲973	▲208	▲1,631	▲255	▲589	▲118	▲962
国内貨物輸送(対前年同期比:%)	20.0	15.3	14.6	7.4	1.1	▲13.2	15.7	0.7	▲24.2	▲34.0	▲38.0	▲26.7	▲13.4	▲26.2
国内鉄道貨物輸送(対前年同期比:%)	7.9	9.1	13.5	13.5	10.3	▲4.1	4.0	1.5	▲5.4	▲17.2	▲32.0	▲28.3	▲22.5	▲27.2
国内道路貨物輸送(対前年同期比:%)	78.4	33.6	17.3	▲6.6	▲24.5	▲50.6	94.1	257.0	▲76.8	▲81.1	▲51.0	▲15.0	128.4	▲19.7
成畜死亡数(千頭)	1,452	888	2,635	1,118	2,064	3,012	1,049	1,339	18	607	67	151	141	359

(出所) モンゴル国家統計局『モンゴル統計年鑑』、『モンゴル統計月報』各号 ほか

(注) 消費者物価上昇率、登録失業者数、貨幣供給量、融資残高、不良債権比率は期末値、為替レートは期中平均値。